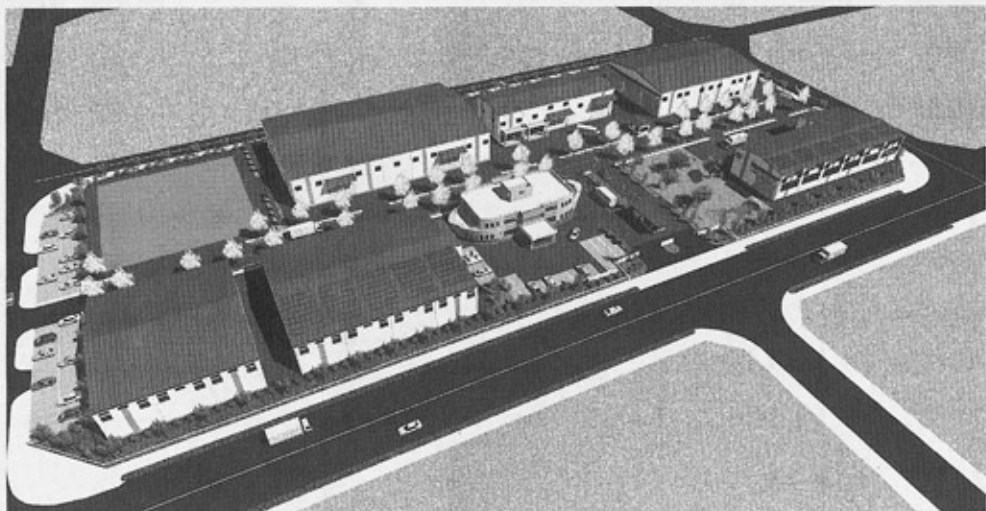


熊本に 総合リサイクル新会社設立

石坂グループと共同で



エコポート九州のイメージ図

日本紙パルプ商事

日本紙パルプ商事は、有価物回収協業組合石坂グループ(熊本市)と合併で、マテリアルとサーマルの2つのリサイクル手法を組み合わせ、企業や地域から排出される廃プラスチックや古紙、木質廃材などの廃棄物を高度な技術で再資源化する総合リサイクル事業に参入する。新会社「エコポート九州」を設立し、先月末に熊本県、熊本市と立地協定を結んだ。7月に施設建設に着手、来年4月の事業開始を目指す。当面は年間4万5千5万トンの処理を行い、3年後に売り上げ20億円を目指す。同事業は日本紙パルプ商事の自社グループでのリサイクル事業本格参入の第1弾となる。

7月着工、来年4月稼働へ

新会社は熊本市内に設立しており、資本金は2億円。総投資額は40億円。社長には石坂グループの出資比率が70%、石坂パルプ商事が70%、石坂グループが30%となっている。総投資額は40億円。社長には石坂グループの理事長の石坂孝光氏が就任している。事業内容は、①廃プラスチックマテリアル事業②機密文書溶解・リサイクル事業③木質原材料製造事業④固形燃料(RPF)製造事業の4つを柱としている。

就任している。事業内容は、①廃プラスチックマテリアル事業②機密文書溶解・リサイクル事業③木質原材料製造事業④固形燃料(RPF)製造事業の4つを柱としている。

法に基づく入札制度を活用する計画で、3年後の入札参加を見込んでいく。

機密文書溶解・リサイクル事業では、自治体、企業などから受け入れた機密文書を、保管箱を開封せずにそのまま溶解して古紙パルプを製造、周辺の製紙メーカーに出荷する。また、梱包などに使われるクレープ紙を自社製造し、運送業者や陶磁器メーカーなどに販売する。

木質原材料製造事業では、これまで発生力ロリが低く使用できなかった風倒木やダムなどに溜まる間伐流木などの生木類や建築廃材などを集荷し、破碎、圧縮して固形化、木質ペレットを製造する。建材メーカーに販売するほか、バイオマスエネルギー燃料としても利用される。

装リサイクル

プラスチック製品の原料に使用される。回収に関しては容器包装リサイクル

この3つの事業で出る残渣物を主原料にRPFを製造。製紙工場や近隣の温泉施設等で燃料として使用する。ほとんど残渣物を外部に排出しない、「限りなく完全ゼロエミッションに近い工場になる」(環境事業部)見込みだ。

新工場は24時間フル稼働すれば年間約12万トンの処理能力を持つ九州地区有数の施設となる。当面は年間4万5千5万トンの処理を行い、3年後の売り上げ20億円を目指す。日本紙パルプ商事はこれまで古紙再資源化事業や環境配慮商品の開発・販売などを手掛けてきたが、総合リサイクル事業に本格参入するのは今回が初めて。今後は全国展開も視野に入れ、事業拡大を図っていく。